

令和 5 年度 第 9 回教育委員会 議事録

1 日 時

令和 5 年 8 月 29 日 (火) 9 時 00 分から 12 時 05 分まで

2 場 所

津市教育委員会庁舎 4 階 教育委員会室

3 出 席 者

津市教育長	森 昌彦
津市教育委員会委員	西口 晶子
津市教育委員会委員	富田 昌平
津市教育委員会委員	田村 学
津市教育委員会委員	山口 友美

事務局

学校教育・人権教育担当理事	伊藤 雅子
教育研究・情報教育担当副参事	山下 尊仁
教育研究支援課担当主幹	伊藤 信介
教育研究支援課担当副主幹	本多 史明

森教育長

令和 5 年第 9 回教育委員会を開催します。

それでは、本日も前回に続きまして、議案第 33 号の御審議をお願いします。種目別に別紙 1 のスケジュールに沿って御協議をお願いしたいと思います。教科書の見本本は事務局が運びますので、手に取って御覧ください。

では、まず、国語から御協議をお願いします。事務局が選定案と見本本をお配りしますので、しばらくお待ちください。

それでは。調査員代表より、国語の採択候補の御報告をお願いいたします。

【国語】

調査員代表

みなさん、改めましておはようございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

早速ですけれども、様式2、お手元にございますでしょうか。選定案といふことでワンペーパーありますでしょうか。これに基づいて御説明をまずさせていただきたいと思います。国語の調査の考え方としては、国語では光村を採択してはどうかというふうな案を作らせていただいております。お手元の様式2のところの理由の方を御覧いただきたいんですけども、まずこの三者、これは光村、それから教育出版、それから東京書籍、国語は三つの教科書会社になっておりますけれども、この見本本を調査検討いたしまして、光村の国語が最も適切な教科書であると私どもとしましては判断をいたしました。

主な理由は下記の通りなんですけれども、大きな1の部分ですけれども、学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫というのが随所にございます。大きな白丸なんですけれども、読ませていただきます。「単元ごとに学習の進め方が示され、学び方が重視されており、見通しをもって具体的に学べるよう工夫されております。ページ上段には問題を見出し、主体的な学習を実現するための問い合わせが提示されており、ページ下段には問題解決に向けたヒントが数多く示されて、児童が自ら考えを深められるように工夫されています。さらに、広げようつなげようでは考えたことを話し合う活動が設定され。対話的で深い学びにつながる構成となっております。」これを、例を示させていただきますと、光村の3年生の下134ページを御覧いただきたいと思います。光村の3年生の下の134ページでございます。こちらは、学習の進め方が見開きで書いてあるページなんですけれども、ちょっと戻っていただきますとこの教材は「もちもちの木」という教材になっております。これを読んでどういうふうに学習を進めるかというのが134、135ページにわたって書いてあります。見通しを持とうということで問い合わせを持つというふうなことで、子どもたちに、「今こういう問い合わせを持ちましょう」で目標があります。そして、「捉えよう」「深めよう」「まとめよう」「広げよう」というふうに学習をしていきます。例えば、「問い合わせを持とう」では「あなたは豆太をどのような人物だと思いましたか」という問い合わせを持たせる。そして

「捉えよう」のところで、確かめましょうと呼びかけて、「深めよう」のところで1つめの丸「豆太はどんな人物ですか。行動や会話、語り手が語る言葉などをもとに想像しましょう。」と、またここでも小さな課題があります。こういった課題を一つ一つ子どもたちは解決しながら考えを深めていく読み取っていくことですけれども、今の問い合わせ下に丸1というふうなのがあって、豆太がどんな人物なのかというのを捉える時の丸1が下に繋がってまして、ここがヒントになっております。「言葉に着目しよう」「人物を表す言葉を誰が語っているのかに気をつけてみましょう」というポイントを押さえながら読んでいくと課題解決につながりますというヒントとなっております。

「深めよう」のところは、もう一つ丸2というのがありますて、その下にヒントがございます。これが繋がっているような形になってます。それで「まとめよう」があります。そして「広げよう」があります。「広げよう」のところは、昔の国語の授業というのは割と登場人物の心情をそれぞれ子どもたちが読み取るところで終わるということが多かったんですけども、ともすればそういう形になっていました。ところが今はやっぱり子どもたち一人一人が持った考えを友だちに広めていく、そして友達の考えも聞く、そしてそれで総合的に交流をしながら深めていくということが大切になりますので、広げようというのが必ずついております。これは読ませていただきますとまとめた考えを伝えましょう、友達の考えと自分の考えを比べ似ているところや違うところ、新しく気づいたことを見つけましょうという活動をして深めていって、その下に伝え合いの例ということでここにもヒントがあります。そうやって主体的対話的で深い学びを進めていく中で最後は「振り返ろう」ポイントで知る、読む、つなぐと3つのポイントを明示して振り返りを行う。めくっていただきまして136ページですけれども、登場人物の考えを伝え合うと「大切」というところがありますけども、ここはこの単元の学習で学ぶべきことを明確に示していただいている。そして最後は、生かそうというところで学んだことをそのまま国語の授業だけではなく他の学習、今後の学習、あるいは生活へと一般化していく。そのためのヒント、手立てが明示されている、こういうふうな作りで学習の進め方が単元ごとに詳しく掲載されているというところがあって、子どもたちも主体的に学びやすいと思

いますし、教員にとってもこれを羅針盤としながら学習を進めていきやすい構成になっているなというのが光村の構成となっています。

そこで例えば、他も比べてみたいと思うんですけれども、東京書籍の方も少し比べるために御覧いただきたいと思うんですが、東京書籍の同じ3年生の下をお出しいただけますでしょうか。東京書籍3年生の下54ページです。こちらも学習の進め方があります。少し戻っていただきますと同じもちもちの木の教材になってます。見比べていただきますと同じように学習の進め方はありますが、少し差異はありますと大きく変わるということはありませんけれども、光村の方が子どもたちにとってわかりやすい構成になって、より丁寧になっていると考えています。あと同じように教育出版の方も比べたいと思うんですけれども、教育出版も同じように3年生の下、あちこちしまして大変申し訳ありません。教育出版3年生下52ページです。こちらのもちもちの木の教材、たまたまこの3年生はもちもちの木の教材が3者とも同じように出ていましたので、ここで比較すると一番わかりやすいかなと思っての例示なんですけれども、教育出版も学習の進め方っていうのはこのように明示されています。ただ、少し大まかな感じがあると思うんですけれども、そういった部分で少し差異があるという風に思われます。こういうところから学習の進め方で考えますと光村が最も良いのではないかという判断をいたしました。では、選定案のペーパーの方に戻っていただきまして、中ほどちょっと上の大きな白丸の2つめでございます。説明文単元の部分なんですけども、まず見開きの練習教材を使った学習が設定されています。その学びを次の教材を使った学習に生かすことができるようになっています。また深めようまとめようでは筆者の論の展開の工夫を理解するとともに筆者の考えと自分の考えを比較し、まとめようで自分の考えを伝え、言語能力、論理的思考力の育成が図られるよう工夫されています。さらに巻末の図を使って考えようには文章に説得力を持たせるために図表を活用して情報処理する、そういった方法が紹介されていますということで、こちらも例えばということで御覧いただこうと思うんですけれども、光村の3年生の今度は上3年生の上54ページを御覧いただきたいと思います。こちらは「もんよう」という教材がありまして、練習と書かれています。見開きではじめ中終わりという文書全体の構成を

捉えていく部分なんですけども、この練習教材見開きのページで練習をします、読み取りの練習をします。見ていただきますと大切な部分、問い合わせていう部分に赤いラインが入っていまして、答えにも赤いラインで示されています。子どもたちはこういった問い合わせに着目する、そしてその問い合わせに対する答えを見つけてそしてそれがよくわかるようにどんな構成の工夫があるかというふうなことも考えていく。そこには始め、中、終わりという大きなまとまりで文章が書かれていますねというところにいくわけです。そして、次めくっていただきますと 5 6 ページには「こまを楽しむ」というこちらが主教材になります。この主教材がメインなんですけれども、この主教材は見ていただきますと 6 ページにわたる内容になっております。この 6 ページに渡る内容をよりわかりやすくと言いますか、子どもたちにも読み取りやすいように指導していくために練習教材があるという構成になっています。6 2 ページ、ここにも先ほどと同じような学習の進め方っていうのが示されています。全て同じようなこの流し方が示されていて、これに基づいて子どもたちは読み取っていけばよいということがあります。それと、ちょっと飛びますけども、6 年生の光村の厚いですけれども 6 年生の教科書をお出しいただけますでしょうか。6 年生の教科書の 3 1 1 ページ、これは一番後ろのこの折り込みのページになっています。こちらを御覧いただきたいと思います。これは光村のオリジナルなんですけれども、各教科書にこういう折り込みが入っています。図を使って考えよう、つなげる、分ける、比べる、広げる、位置づける、このように構造化して文章を書いたり考えを整理したり、あるいは書いてある文章をこのように構造化して捉えていく、そうするとよくわかりますよ、あるいは友だちに説明する時に説得力が出てきますよというふうなことをやるために手法として例示があるわけです。こういった捉え方、こういったことを子どもたちが知った上で友達と対話する、あるいは発表する文章を書く、あるいは読み取るときにこれを生かすということで、こういったことが非常に有効であると考えました。言語能力、論理的思考力を高めていくために、こういったことは必要であるということで、光村オリジナルで入っているものでございますので、これは良いなと考えました。選定案のペーパーの方にまた戻っていただきまして、3 つめの白丸でございますけれども、読

む、読み取り、物語文ですけども、物語文や詩には心を揺さぶる内容のもの、興味関心を引き付ける名作が美しいイラストとともに数多く掲載されているのが光村だと判断しております。例えば、そこに例示を書かせてもらっていますけれども、説明文についても好奇心を高める内容のものが鮮明な画像とともに掲載されています。また季節の言葉というところで四季折々の言葉を美しいイラストや画像と共に紹介して、子どもたちの自発的な表現につながるよう工夫されていると考えました。例えば、先ほど見ていただきました6年生の教科書で82ページを開いていただけますでしょうか。光村の6年生の82ページです。6年生「夏の盛り」という風なところの教材なんですけども、二十四節気、立夏、小満、芒種とこう書かれておりまして、その下に小さな写真ではありますけれども、美しい今写真が掲載されています。ここは、夏の手紙を書いて友だちやお世話になった人に夏の便りを送りましょうというふうな单元なんですけれども、こちらもですね、こういった画像を見たりしながら説明を読んだりしながら書いてみたいなとあの人に手紙を出してみたいなという風な気持ちを高めるようなことになっていると考えております。特にこの画像なんですけれども、3者をこう見比べていただきますとやはり光村は非常に美しく鮮明な画像が掲載されていますので、非常に良いなというふうに思いました。あと選定案のペーパーに戻っていただきますと、使用上の便宜ということですと、教材が豊富に配置されております。教材全体の分量は児童が様々な活動を通して学習するために十分な分量となっております。それから、文字が太くて見やすい、また必要に応じて文字の太さや字体を変えており、大事なところに児童の注目が向くようにしてあることから、それぞれ3者検討しましたところ、私どもいたしましては、国語は光村が最も良いというふうに判断いたしましたので御報告をさせていただきます。御審議よろしくお願ひいたします。

森教育長

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして御質問御意見はありますか。

田村委員

提案理由をお話いただいたんですが、前年の調査結果を見せていただいている中で、この選んでいただいている光村と比較的拮抗している評価となっているかなと思われる東京書籍、決定的に違うのはＩＣＴの活用のところが光村の方は全く評価が報告書にはついていない。逆に東京書籍の方は事細かに書かれていて、それ以外のところは大体光村の方が優れているようなんですかけれども、ここはどういうことでしょうか。

調査員代表

はい、こちらの考え方としましては、今、おっしゃっていただいた通りＩＣＴ、二次元コードとしての資料の数は東京書籍が圧倒的に多いという風になっています。それが丸の理由にしているわけですけども、二次元コードで入っていきますといろんな資料があります。簡単に申し上げますと、数は多いんですけれども、各者それぞれに二次元コードはそれなりについていて、ちょっと教育出版は少ないというぐらいなんですけども、二次元コードに入っていきますと、その中身はこの教材を読み取るための補足資料であったり、それからちょっと練習問題ですね、漢字で教科書に問題が出てますけども、時間が余ればこの二次元コード読めば、新たな練習問題ができるという作りになっています。そういう形で東京書籍が最もその資料数が多いということになってます。ただ、情報活用能力ということ、ＩＣＴの活用、情報活用能力ということを考えていきますと、単純にその教材を読み取るための補足資料とか練習問題というのは、例えば練習問題は教員がだいたいプリントを作って配付してやっている、補足資料は教員が何か資料を持ってきて見せるということも今やっているところなんですけども、ＩＣＴの活用となっていきます。例えば、インターネットは冒険だというのが東書にあるとか、各者それぞれに光村でしたら「インターネットのニュースを読もう」ということがあって、その活用ということを考えますと、資料の多さというよりもインターネットに対して自分はどういうふうにどういう考え方でインターネットを活用しよう、あるいはこういうことを考えたいのでインターネットで検索して必要な資料を引っ張り出す。そういう活用というのは考えるわけで

すけども、まだ各者のそれぞれの二次元コードの中身は資料の提示が中心で、まだ発展途上という感じです。資料が多いんですけどもそれによって、確かにタブレットから使うというその回数は増えるかもしれないんですけども、そこからもう少し国語の力として発展していくというところまでは、各者の二次元コードの中身の内容は補足資料っていうような程度になってますので、まだそこから大きく子どもたちのＩＣＴの活用とか、そこからもっといった論理的思考力そういったところに発展していくにはまだちょっと発展途上というようなことを思っています。それよりも先程ちょっと申し上げましたＩＣＴを活用する主教材、デジタル機器と私たちとかインターネットでニュースを読もうとかあるんですけども、読み取りとそのことに対して自分の考えを伝え合って、そしてタブレットでやってみようとかそういうことがＩＣＴの活用にとって求められます。ですので、そういったＩＣＴの活用力を高める教材がどれぐらいあるかというのは、読み物教材、説明文教材については、それがあまり優劣がつけられなかったので、まだ発展途上ではありますが数が最も多い東書に一重丸をつけました。その上で、トータルでどこの教科書があつたらいいかと考えた時に光村という判断をいたしました。

田村委員

まだまだ国語の教科においては、ＩＣＴの活用というのがそれほどこう重要性を占めるような、なんて言うんですかね、ノウハウができるまでは至っていないということなんですかね。

調査員代表

そうですね。二次元コードで入っていった先の資料の中身がもっと発展性に富んでいるものであればそれはそれで非常に評価をさせてもらおうと思ったんですけども、やはりまあ数は多いんですけどもこれも光村もそうなんんですけども、例えば消防車がありますと、消防署の消防車の内容が教科書に出ています。もうちょっと違う角度から消防車をとるとこんな画像があるぐらいの中身なのであえてそのここの二次元コードで読み取って、子どもたちの思考力判断力を高める内容になるかというとそこまでもいかない。それやったらインターネットで

検索をした方がもっとたくさんのものがありますし、そこはまあ数は多いので丸はつけましたけど、さほど今回の三者の教科書ともに深い内容に入っていくようなインターネットの二次元コードの中身には、なっていないというのが判断になっています。

森教育長

他、いかがですか。

森教育長

全然はずれたことを言いますけど、道徳の教科書を決めた時に道徳の教材でそれいいなと思ったのは範読っていうか、音読をしてるQRコードが全部ついているんです。国語の教科書は、今はたぶんそんなの無いと思うんですけど、もし、そういうのがついたらそれはいい意味で評価になるのかそれはいらんのか。音読ってすごく大事じゃないですか。もしかしたら最初は先生が1回範読することもあるかもしれないし、読み方もいろいろあると思うんですけど、もっと言うと子どもたちは読んでわかる、いいか悪いかは別として、耳から入る、理解できる子もいるじゃないですか。そういう発想で、国語の教科書に、今後例えばそのまあ全部じゃなくても物語文なんかについて、そういったものが例えばQRコードですれば、範読みみたいにそういう読みがこう聞けるみたいのがもし出てきたら、それは、どうなんですか。

調査員代表

そうですね。ちょっと迷うところですけども、ないよりあった方がいいかなと思います。

家で音読の練習するとき、子どもは自分の読み方で読みますけども、他者のを聞くというのはとても大切です。ただその読み方で入ってしまうと、今度は感性と言いますか、読み取りに影響していくというところがあります。

森教育長

それはないんかな。国語の教科書で。

調査員代表

ないですね。ただ、光村に 1 点だけあったのが、古典の音読がありました

古典は、非常に読みづらいです。聞いたこともない子どもももいます。光村だけは、古典の音読が入れてあった。それに丸をつけるかどうかと思ったんですけど、それだけで、丸をつける勇気がなかったんですけども。

森教育長

道徳と国語は違うんだけど、いろんな子どもたちがいるし、その中で例えば、こういう二次元コードだけでそういうことも可能になってきたということで、どんな判断になるかなと、ちょっと興味があったので、聞いてみました。

西口委員

自分の国語の授業を思い出しながら、初発の感想を書かず前には私はいつも、範読のテープがあって、指導書についていて、最初に聞かせて、書かせてというのは、よく利用していたんですけども、どうしても子どもたちが文字離れの中でこれだけの内容、6年生の教科書に詰まっている文字を、いかにデジタルとの兼ね合いの中で、生かしていくのかということをこの厚さを見ながら、感じているところでです。それで、教材、資料の分量が、教えたいのは、これだけだけど、これでやっぱり適当と判断されたんですか。

調査員代表

そこも、実は議論になってまして、見ていただいたら文字の多い少ないのが教育出版になってて、東京書籍は間を取つてるような形になってはいるんですけども、教材数をちょっと単純に比べてみたんですね。全部を比べることは難しいので例えば5年生の教材数、単元数をカウントしてみると、光村が22ありました・東書が18、教出が17ということで、光村が最も多いということなんですね。それはひょっとしたら忙しいんじゃないかということなんですけども、現場

の教員の意見を聞いた中では、その 1 つの単元を昔みたいに 10 時間とか 12 時間とかかかるんではなくて、バラエティに富んだ単元をそんなに多くの時間をかけずに子どもたちに提供していくということがやっぱり大切なんじゃないかということで、学調においてもいろんな問題の出され方がされています。私もそうだったんですけど物語文ですごく時間を使ってました。それよりも私はここを根拠にこう考えたっていうやり取りで深めていくことがメインになってきている流れがありますので、物語文だけじゃなくて、いろんな説明文あるいは、インタビューとかもありましたけど、そういういたバラエティに富んだものがあるのが光村だったので、先生たちにそれを生かしてほしいというふうに思って判断しました。

富田 委員

よろしいですか。お話非常によくわかって、それでいいのかなと思うんですけど。ちょっとずれた話になるんですが、先程委員さんたちと夏の読書感想文の話を聞いて読書感想文なんかは生成 AI とかに作らせるみたいな事が今後あるんじゃないかという話の中で、この国語の教科書の中では、そういうものの付き合い方っていうことについて、何か記述されているんですか。

調査員代表

そうですね。生成 AI との付き合い方というのが 1 者あったと思います。教育出版の 5 年生の上にございます。教育出版 5 年生の上 116 ページ。ミニディベートですけども、AI との暮らしということで AI についてこの 1 つだけだったと思いますけども、ただその生成 AI をちょっと違う内容ではありますけども、各者そのインターネットとの付き合い方っていうことはありますし、AI というようなことではいかないですけども、それぞれにインターネットとの付き合い方、そこにはフェイクな情報もありますしということを伝えながら自分で正しい情報をキャッチしていくという力を高めましょうというような事はそれぞれに入ってはおります。

富田 委員

ありがとうございます。

森教育長

よろしいですか。それでは採択の協議に入りたいと思います。調査員代表。ありがとうございました。

調査員代表

ありがとうございました

森教育長

それでは、教科書採択について御意見をお願いします。

西口委員

本当に情報量がすごく多くて、これを全て子どもたちに教えようと思うと大変だなと思います。ですので、教える側は、教師はこれを全て理解したうえで子どもたちにどこが必要で、ここはしなくていいということを知ったうえで、していくために一番適している教科書だと思うので、光村にお願いしたいなと思います。

森教育長

はい、よろしいですか。

富田委員

生成A Iの話をしましたけども、やっぱり今後は子どもたちがこういった道具に自分なりの見方考え方っていうものを増やすということもやって、喜びというか、楽しさということを国語の教科としてどうやっていくかっていうのは結構大事になってきて、その意味では、例に出していただいたような箇所を比較してみると、やはり光村さんの教科書はそういうものを上手く子どもたちに喚起させるような、そういう仕掛けになっているかなと思いましたので、光村がいいと思います。

山口委員

学習の見通しを持とうというところが、やっぱりわかりやすいということは、授業だけじゃなく、先生方もわかりやすいんだろうなと思って、授業をする中で、自分たちも使いやすいということは、とても大事なことだと思いますし、A I の時代になって、人が動く力はすごく大事になってきていると思って、何が違うのかというと、力を持つことだと思うんですね。自分で生成していくという、自分の中でというのがものすごく大事になると思いますので、基礎の部分を小学生中学生が培っていくということがすごく重要なことだと思うんですね。なので先生方の授業の力が大事になってくると思います。そのなかで、光村はそういった意味でもすごくいいかなと感じました。

事務局（伊藤理事）

すみません。よろしいですか。先ほど、範読の話が出たんですけども、実は津市は、今、国語とそれから英語で指導者用のデジタル教科書を導入しております、デジタル教科書には範読が入っております。しかも声優さんとか、ものすごくお上手な方が範読しててカラオケのように色が変わっていくんですけども、そういうのをやってるんですが、国語よりも英語は非常に範読が活用されています。国語よりも理科とか社会の方がまだ範読が入っていてもデジタルというふうなことを考えると国語の範読よりもそちらの方がもっとこう活用がされるかなということで、今先生方の方から意見聞かせていただいておりますので、あれば活用はあるのかなということなのかなと思います。

森教育長

はい。

田村委員

他の教科で結構その I C T の関係が最終的に決定の重要な項目になっていたような気がするんですけど、先ほどの説明で国語科ではそのような状況にないってことがわかりましたので提案通りで私は良いと思います。

森教育長

はい、それでは光村の「国語」を令和6年度使用小学校用教科書として採択するということで、決定でよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

はい、それでは、津市教育委員会として、光村の「国語」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに、決定をいたします。

では、続きまして、書写について協議をお願いします。事務局が選定案と見本本をお配りしますので、しばらくお待ちください。

【書写】

森教育長

おはようございます。それでは、書写の採択案の報告をお願いします。

調査員代表

はい、失礼いたします。様式2、書写の調査報告書選定案について、御報告いたします。

3者の教科用図書見本全てを学習指導要領の趣旨に沿って精査した結果、東京書籍の「新編新しい書写」が令和6年度使用する教科書としてふさわしいと評価いたしました。

3者ともに、児童の主体的な学びを支える工夫が見られました。東京書籍の「新しい書写」と光村図書の「書写」は、それぞれの良さが拮抗していました。端的に申し上げると、東京書籍は、シンプル・明瞭、光村出版は、情報多彩・面白い教科書です。書写は国語科の中で、週1回程度限られた時数の中で指導します。ですから、シンプルで、大事なことがコンパクトに押さえられている教科書を選定したいという意見がありました。また、今は若くて経験の浅い教員が増えて

おり、経験豊富なベテランであれば、情報量が多くおもしろい教科書の中身を、扱いに軽重をつけたり他教科と関連付けたりしながら指導できるが、経験の浅い先生は、使いこなすのが難しいかもしれないという意見があったことを、まず、最初に申し述べておきます。

では、東京書籍を評価したその主な理由として、大きく4つの点について説明させていただきます。

まず、学習指導要領に定める書写の目標を達成するための大手なポイントを、『書写のかぎ』として学びの中心に据えていることです。

1つめの丸に、2年生4ページと書きましたが、3年生の教科書で説明させていただきますので、東京書籍3年生22ページを御覧ください。このように、教科書右下の位置に『書写のかぎ』を常に示すことで、課題を見つけてふり返り、主体的に学べるよう工夫されています。7つめの丸に書きましたが、終盤の「学びを生かそう」では、『書写のかぎ』を生かして、学習を日常の課題とつなげる工夫があり、3年生を例にとりますと44ページからになるんですが、巻末、3年生44ページの方からには1年生からの『書写のかぎ』が一覧でまとめられ、学習事項をふり返ることができるようになっており、優れています。

2つめは、何を学ぶか、どのように学ぶかがわかりやすいことです。表紙裏のインデックスで学習事項が色分けで示され、星印が付いているので、何を学んでいるかが一目でわかります。また、2年生以上では巻頭に「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」「ふり返ろう」そして「生活に広げよう」といった見出いで、主体的な書写の学び方を示しています。どの単元も、虫眼鏡マーク「見つけよう」で、各単元の課題を見つけ、筆マーク「確かめよう」鉛筆マーク「生かそう」で定着を図る学習の流れとなっています。さらに、3年生12ページなどのように、話し合いや思考を促すマークの設問を提示し『書写のかぎ』につなげています。このように、対話的な学習で言語活動を促す設問を、マークで示す工夫もあります。

3つめは、学んだ書写の力を生かすこと、つまり何のために学ぶかがわかりやすいことです。7つめの丸にありますように、教科書終盤の「学びを生かそう」では、『書写のかぎ』や1年間の学びを生かして、手紙やはがき、カードや寄せ書きなどを書く活動が設定されており、すろくや消しゴムハンコなど楽しい活動も取り入れながら、日

常の課題や生活と書写の力をつなげる工夫があります。また、各学年「文字といっしょに」で、書初めをはじめとする様々な文字文化や書道具を紹介したり、文字の力や文字に込めた人の思いを感じさせたりし、児童生徒の興味・関心を高め、日常生活や地域に目を向け、学習を広げる工夫もあります。さらに、「生活に広げよう」では、他教科との関連をリンクマークで示し、総合的な学習の時間や委員会活動のポスター やリーフレット、新聞作成等、書写の学びを他教科や学校生活に広げる工夫があります。

最後に、使用上の便宜、教員の指導のしやすさ、児童の使いやすさについてです。東書は、1ページ当たりの分量が適当で、毛筆手本の文字も基本事項に沿って精選され、まんべんなく配当されています。例えば、3年生が毛筆で初めて学ぶ点画は「横画」です。先ほどの3年生12ページにありますように、東書は「一」とシンプルです。他者の手本は「二」です。「はらい」の手本も東書は「人」ですが、他者は「大」(大きいという字)や、「木」が手本となっています。毛筆の初期は、準備や片付け、姿勢なども含めて丁寧な指導が必要です。手本がシンプルであることは、指導する側も使いやすく、学ぶ子どもたちも活動が焦点化されてよいと考えます。また、東書のB5変形サイズの紙面は、コンパクトながら、手本が半紙と同じ縦横の比率で見やすく、128%拡大で原寸大となるところは優れています。さらに、点画を分解し、指導事項の中心となる画に色づけして、理解しやすく表記しています。また、ユニバーサルデザインの字体を使用し、配色やデザインに色覚多様性への配慮があること、書写体操で体をほぐし、書き方の特徴を動物の動きや「とん」「すう」「ぴたっ」などの擬態語を使って表現し、多感覚へ働きかけていることもよい点です。低学年では左手での鉛筆の持ち方の写真を右手と同様に原寸大提示するなど、左利き児童への配慮も、しっかりとされていました。以上のような理由をもちまして、東京書籍の教科書を書写の選定案として、報告いたします。

森教育長

ありがとうございました。ただ今の報告につきまして御質問、御意見はございますか。

西口委員

はい。左利きの児童への配慮につきまして、先ほどおっしゃっていましたけれども、ちょっと具体的に、どちら辺を。

調査員代表

例えば1年生の教科書の4ページ、5ページを御覧ください。他者でも左利きの写真はあるんですが、東京書籍はこのように右利きと左利きを同じ大きさの写真で示されており子どもたちが実際に手を上に重ねてこう、やっていただいて確かめられるというような様子もあります。

西口委員

毛筆の方は。

調査員代表

毛筆については、そんなに大きな差はなかったんですけれども、3年生の5ページには左手で書く場合というふうに用具を左右入れ替えると書きやすいとの表示がありまして、タブレットでの方でもこのような置き方が見られるように工夫がしてございます

西口委員

ありがとうございます。

富田委員

よろしいですか。ちょっと教科書と関係ない話になってしまふんですけども、昔は習字教室とかに習いに行っている子どもたちが非常に多かったと思うんですけど、現在学校外でこういう書写の指導とか経験している子どもたちは割合的にどのくらいかわかりますか。

調査員代表

そうですね。わたくしの勤めている小学校は大変高いです。というのも地域の集会所で習字教室というものを無料でしていただいていて、地区学習の中でしているので、本校児童25名のうち1年生から参加しているので20人くらい登録していたと思います。前任の学校

では、やはり私たちが子どもの頃よりは習字教室に通っている児童は少なかった印象を持っていますので、地域差はあるのかなと思います。

富田委員

よろしいか、もう1点。そういう経験によって児童への取り組みの姿というのは大分違ってきますか。

調査員代表

そうですね。やはり、書道具の準備とかが初めてですと、時間がかかっているというのあります。やっぱり経験が少なくなっている分、前任校では、子どもたちにシンプルに基本事項を忠実に教えていくということに重点を置いていました。

森教育長

はい、山口委員。

山口委員

1年生の段階からタブレットで文字を入力するような時代になって、実際に最初に文字を書くことがなくなってきたので、ますます重要性が増しているという気がしていまして、書き順とか含めて、国語もそうなんんですけど、無くなってくるんだろうなと思って、とても大事な教科の気がしていますので、現場の先生方が御苦労されていらっしゃるのかなとか感じているんですが、なんかそういった、タブレットを使うことによっての変化なんかは感じいらっしゃいませんか。

調査員代表

タブレットの良さも感じておりますし、やはりあの鉛筆で書いて消して、なかなかそれに時間がかかるって、こう紙がぐしゃぐしゃになるとか、そういうことがないタブレットの良さもございますが、学校現場ではやはりノートに書かせていて、やはり文字で思いを伝えています。来ていただいたゲストティーチャーの方にお札を書くときにはやはり手書きでちょっとイラスト添えたり色塗ったりしながらということをしています。そのような時にもやっぱり気持ちを伝える文字の

形や、心を込めて丁寧に文字を書くことの指導は書写や他の教科も教員は心込めて指導しているように思います。うまく使い分けているとは思います。

森教育長

よろしいか。

田村委員

あの非常に拮抗している光村の方と、少し僅差で負けてるのかなっていう部分がＩＣＴの部分とそれともう1つはその他のということで、特に光村の方を見てください。外国につながる児童への配慮ということで言われるんですが、この辺は書写ってちょっと先入観の塊でしたので、そういう学校には筆みたいなものを初めて見る子というか、そういう文化じゃない児童もいらっしゃるんですよね。その対応っていうのはこの教科書にありますか。

調査員代表

そうですね。あの、先ほど富田委員もおっしゃいましたけど、子どもたちによって筆とかこういう習字に触れる機会は様々で、外国にルーツを持つお子さんが特に困ってみえるということは感じてはおりません。ただ、本当に、光村の教科書には多様性に配慮した、いろんな写真など、そういうこともたくさんございました。それから東京書籍も5、6年生だったかな、海外につながるようなこともあったかなと思います。いまさっと答えられなくて、申し訳ないんですが。

田村委員

ありがとうございます。

森教育長

はい、よろしいですか。はい、それでは、教科書採択にかかる協議に入りますので、調査員代表、ありがとうございます。

はい、それでは教科書採択について御意見をお願いします。

富田委員

最初にその教員の経験値の差みたいなところの話もされてましたけども、今、児童生徒の経験値もかなり幅があるというふうなことなので、そこを考えても基本ということに力点を置いたようなシンプルなものの方が良いのかなって思います。ですので、御提案の説明にあつたように東京書籍の方でいいんじゃないのかなと思います。

森教育長

はい、よろしいですか。はい、それでは東京書籍の「新編新しい書き写」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

はい、それでは、津市教育委員会として東京書籍の「新編新しい書き写」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定をいたします。

では、続きまして、社会、地図につきましてお願ひします。

【社会・地図】

森教育長

おはようございます。社会科、地図ですね、採択候補の報告お願ひします。

調査員代表

はい、お願ひします。様式2を御覧下さい。

東京書籍、教育出版、日本文教出版の3者の見本本を学習指導要領の趣旨に沿って精査をさせていただきました。その結果、日本文教出版の「小学社会」の教科書が、令和6年度使用する教科書としてふさわしいと評価をいたしました。

3つ大きなポイントがあるんですけども、1つめですけど、1の学

習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫の3つめの丸になります。関連動画等々のQRコンテンツに忠実ということで、3年生の教科書で言いますと、99ページ、それから、117ページ、5年生の教科書でいいますと148ページ、それぞれ消防署、警察署、それから自動車の生産と、なかなか画面上ではわからないんですけど、QRコンテンツを利用することによって流れがより子どもたちはよくわかるということになっています。子どもたちが自主的に学ぶことができるということと、教師が授業に必要な資料の準備をすることが容易であると、社会科という教科の特性から、今までどうしても教科書を教えがちであったものが、教科書で教えるという方向に、いけるんじゃないかなと感じました。

それから2つめのポイントです。同じく1の項の6つめです。3年生の教科書になります。ほぼほぼ最後156ページ、157ページ。3年生で初めて社会科を扱うんですけど、ここに本市が掲載されております。「津市のだれもがでかけやすいまちづくり」ということで、これは今年度の改訂から、取り上げられましたので、実際に本市の児童が、その場に行ってみることができるし、学習対象をより身近に感じられることから、意欲的・主体的な探究につながると期待できます。全国版に津市が取り上げられているのは、大きいかなと感じております。

最後に、ポイントの3つめ。これはその他の項目の一番下になります。6年生の教科書でいいますと、225ページ。227ページ。ここには、新型コロナウイルス感染症のこととか、それからロシア軍によるウクライナの侵攻のこと、未だに解決をみない今日的な課題ですけれども、子どもたちに色々な疑問や投げかけができるというふうに考えます。ここから社会的な見方をより一層高められるのではないかと感じております。社会科については、大きなポイントとしては、その3つでございます。

では、地図です。

地図については、東京書籍と帝国書院の2者の見本本となります。選定案としてお示しさせていただいたのが、帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」ということになります。

地図につきましては、2つ大きなポイントがあるんですが、1つめ

のポイントとしましては、1番の1つめ、「江戸時代の結びつき」ということで、55ページ、56ページを御覧ください。主に6年生でここは扱う教材ではありますけれども、地図でもありながら、歴史学習との関連をはかる、これは学習指導要領に、地理的環境に関わる事象であっても時間の経過に着目することという大事な項目があります。特に中学校につなげる時に、静態地誌的な考え方と動態地誌的な考え方、静態地誌的な考え方というのは、それぞれ地域の地形とか気候、産業、人口、交通といった各項目の学習から地域の特色を発見する学習なんですけれども、それよりは、今現在求められている力をつけるためには、地域の特色、「なんでここは人口が多いんだろう」「なんでここは農業が発達しているのだろう」そういう特徴を取り出して、じやあそれがどう成立するかという多面的に考察する為にも、こういった地図でもあります。歴史的要素が入っている、こういうところがポイントになるのかなというふうに考えています。

それから、もう1つのポイントですけれども、これは使用上の便宜の1つめになります。先程から言わせていただいておりますけれども、地図帳を利用するというのは、3年生で初めてでございます。ですので、1ページから30ページにつきましては、3年生向けに3年生の学習ということで特に取り出して記載がありますので、それがいいなと思ったところ、それから21ページから30ページにつきましては、160万分の1の日本地図の各地方別が記載されていまして、名産品だとか、観光地など、大きなイラストで掲載されているということです。道路とか地図などが、非常に見やすくなっているかなと思っています。広く見渡す地図としての価値は高いかなと思っております。こういったところで社会科に関心を持って地図に親しむということができるという評価をこの帝国書院の方でさせていただきました。地図については以上です。

森教育長

はい、ありがとうございました。ただ今の報告につきまして、まずは、社会科の方から、御質問はいかがでしょうか。

西口委員

2点質問させて下さい。社会科なんですかけれども、日文の教科書の方がICTの活用がよくなされているという御説明がありましたけれども、東京書籍は他の教科書を見ても、ものすごくICTがあつたんですけど、そこへの評価というのが書かれていないもので、その部分についてどう調査されたのかというのが1点と、もう1点は、日文の方がすごく三重県のことが鈴鹿市にしても、四日市公害にしてもたくさん出ていますけれども、他の教科書では、三重県の扱いがどうだったのかという、その2点をお願いします。

調査員代表

様式1の方に、載せさせていただいた部分を御覧いただければと思います。まず1点目のICTに関わる部分ですかけれども、これでいきますと、今言われたように東京書籍の方は、実際に御覧いただくといいんですけども、4年生の「私たちの県」31ページです。おっしゃられるように、ここには、東京書籍の方はコンピュータを使って、県の特色をまとめるという活動。それから、これは社会科的には大きいなということもありましたが、5年生の教科書106ページ上です。106ページ、107ページ。ここにも水産業が盛んな地域ということでプレゼンテーションソフトを使って、まとめの活動が示されています。ただ、実際に日本文教出版の場合は、動画それからその解説、そしてそれに伴うワークシート、そこまで準備をされておりましたので、1つのQRコンテンツから掘り下げていきますと、非常に学習がし易いということがありました。三重県は、四日市ぜんそく等々は、ほぼほぼ掲載があるんですけれども、教育出版の方ですが、5年生の教科書210ページ、そこに熊野川、新宮川の氾濫というのが載っています。それから、同じく5年生で、238ページ、そこに四日市ぜんそく、それから6年生の教科書163ページ、ここには新しい文化と学問ということで、松阪市の本居宣長が取り上げられております。続いて東書においては、本居宣長は、96ページ。6年生の歴史本で、96ページに本居宣長。四日市ぜんそくもありましたが、何ページかどうか。

西口委員

115ページ。

調査員代表

115ページ。ありがとうございます。115ページにありました。以上になります。

森教育長

よろしいですか。では、はい。

富田委員

デジタルコンテンツの話なんですけど、特にこう私たちのくらしみたいなところで、それを理解するには非常にコンテンツの充実が大事かなと思うんです。実際のところ学校現場では、NHK for Schoolとかの教材の方がすごくできが良くて、そっちを使うことが多いとかそういうことはあるんでしょうか。

調査員代表

教師が一斉授業で使う時には、NHK for Schoolを使う場合も多いんですけども、どちらかというとNHK for Schoolは、自分が授業を見ている限りでは、理科で使うことが多くて、社会科の場合には、NHK for Schoolよりは、こちらのQRコンテンツの方がより深いなという感じがします。

富田委員

ありがとうございます。

森教育長

他、いかがですか。はい。

山口委員

教科書を使っている中で、基本的に授業内で全部片づけられているのですか。

調査員代表

自分らが現役の時は、教科書に掲載されていないことまで、教員が話をしました。今の先生方は見開き 1 ページを 1 時間で終えるようにきちんと授業時数内に、ほぼほぼやっていく方が多いと思います。

山口委員

それで社会の面白さをきちんと伝えられますか。

調査員代表

ここぞという時には、やっぱり時間をかける時もあると思うんですけど、満遍なくと言いますか、中学校でも、また学びますので、小学校はどちらかというと社会というものに关心を持ってという意味で、より身近なところについては時間をかけてやっていくと思います。

山口委員

ありがとうございます。

田村委員

すみません。その他のところの調査報告書、非常にデリケートな領土問題とか、それでもしっかりと子どもたちに教えていかなければならないこともあると思うんですけども、各者、結構しっかりと内容についての配慮というのは調査されたのが、この記述のボリュームを見ても、伝わってくるんですけども、唯一この御提案の日文だけが、二重丸になっているというポイントが先ほど様式 2 の最後の方にありましたように、そういうところで若干差がついたという理解でよろしいんでしょうか。

調査員代表

そうなんです。先程言わせていただいた、教育的な課題、現在起こっていることを取り上げているのが日文だけだったものですから。言われるように領土問題だとかそういうふうなところは今までありますし、学習指導要領でも教えなければいけない項目に取り上げられているんですけども、今日的な課題がはっきり書かれていたのは、ここ

が一番大きかったです。

田村委員

ありがとうございます。

森教育長

それでは、地図帳の方にいってよろしいですか。

田村委員

よろしいですか。単純にですね、御提案いただいているもの、ページ数ずいぶんこっちの方が多いですよね。持った感じ、そんな大した事ないのか、私少し重く感じます。そのページ数が多い分というのはどういう点で差が出るんでしょうか。

調査員代表

先程も言いましたように、一番多いのは、3年生の学習の頭の部分と160万分の1の地図、これは大きいです。

田村委員

これが最大の。

調査員代表

はい。差がつくし、あとは、大きくはそんなに変わりません。

田村委員

はい。わかりました。

30ページ近くも、違う割にはそんなに重みも、わからないんですね。紙質ですか。

調査員代表

いい紙、紙質が。

森教育長

よろしいか。はい、それでは、ありがとうございました。

はい、それでは、採択に入ります。教科書の採択について御意見お願いします。

田村委員

総合的に見て、ということで、御提案通りでよろしいかと思います。

森教育長

はい。

西口委員

日文の方がやはり、より身近に子どもたちが社会の仕組みを学んでいくという点から、地域の教材がたくさん載っているということは好ましいことかなと思うので日文でいいと思います。

森教育長

はい、地図はどうですか。すごいな。これ。よろしいですか。

西口委員

帝国書院で、特にですね、これ、3年生から、3、4、5、6の4年間使うんですよ。それが帝国書院の裏にきちんとこの教科書は3年生でって6年生までの4年間ということも書いてあるので、いいかなと思います。

富田委員

はい。キエフがキーウになったこととかの理由とか、そんなの書かれてたりとかするんですね。

森教育長

これ、キーウになっていますか。

森教育長

はい、よろしいですか。それでは、社会につきましては、日文の「小学社会」を、地図は帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

それでは、津市教育委員会として社会は、日本文芸出版の「小学社会」を、地図は、帝国書院の「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定をいたします。

ここで10分間の休憩をとります。

【生活】

森教育長

それでは、再開をいたします。生活について御協議をお願いします。調査員代表、よろしくお願ひします。

調査員代表

どうぞよろしくお願ひいたします。座って失礼します。

では、今回、6者の教科書見本本を調査した結果、啓林館「わくわくせいいかつ上」「いきいきせいいかつ下」が、令和6年度使用する教科書としてふさわしいと評価をさせていただきました。調査の観点は「学習指導要領に定める生活科の目標を達成するための工夫がされているか」ということですが、その他「使用上の便宜」とか「今日的課題への配慮」等も含めた選定理由を、今から説明をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

まず、1つめ「学習指導要領に定める生活科の目標を達成するための工夫」に関することで7つポイントを説明させていただきます。生活科の目標は、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる

見方や考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成すること」とあります。身近な人々、社会や自然に自ら働きかけ、それぞれの特徴や良さ、それらの関わりに気づくこと、また、考え、表現し、学習後は、自身の生活を豊かにしようとする態度を養うことが求められています。

この啓林館の教科書なんですけれども、まずめくっていただいて、それぞれの単元のところに、例えば、4ページ、わくわくというのがこの左の見出しのところにあります。これが単元の導入として扱われている部分。そしてめくっていただきますといきいき、ピンク色になってるんですけどこれが主活動になる部分、そしてさらにめくっていただいて今度は水色ですね、ぐんぐん、これは振り返りの活動ということで分かりやすく3段階で構成されています。これは活動が発展するよう工夫されているということが特徴として挙げられるところです。それからそれぞれの単元の部分の右下のところに、例えばめくり言葉と呼ばれる部分があるんですけども、例えば7ページの子の右下「もっとお話ししたいな」で次のページへ進むという感じで、めくり言葉があります。これは子どもが気づいて次の活動への思いを巡らす、深い学びが実現するようにということで工夫されているところです。

次に2つめです。言葉・絵・動作・劇化・ICTの活用などの多様な表現活動や言語活動が段階的に設定されており、思考を深め、豊かな表現力が身につくよう配慮されている。そういうことについてです。同じく上の12ページ、13ページを御覧ください。学校の秘密を紹介しようという小単元なんですけれども、入学後の早い段階で1人1台端末を使って写真を見せあっているところ、そして、それを発表に生かしたりするというような様子が載っております。同じく60ページ、61ページ、こちらも御覧になっていただけますか。60ページ、61ページの仲良くなれたことを紹介しようという部分なんですけれども、ここでは文章で紹介、作文の力をつけるため国語科、そして動いて紹介体育館それから絵で紹介、図画工作科など、他教科との関連が示されています。まあ多様な表現力豊かな表現力が身につくように配慮されているという部分です。また124ページ、ちょっと先になるんですけど、124ページを御覧になっていただけますで

しょうか。ここには改めてまとめよう伝えようというところがありますけれども、ここでは伝える内容を伝える相手に合わせて表現方法を自己決定できるようにまとめ方や伝え方の例が示されています。子どもが自分らしさを表現するということが期待できるのではないかと考えます。

では、3つめです。ICTを活用した学習活動の充実を図るための工夫として先ほども御紹介いたしましたけれども、第1学年の早い段階から1人1台端末の活用例が生活科の特質で「見る・聞く・触れる・作る・探す・育てる・遊ぶ」などに配慮させながら示されています。また、二次元コードが各单元に掲載されていまして、学習の助けになる教材のコンテンツ、学びウェブとか電子ブック形式の図鑑のデジタル探検ブックというものが利用できるようになっております。

4つめです。振り返りを表現する場面が適切に設定されています。何度もめくっていただいて、申し訳ありませんが、上巻13ページをお願いいたします。13ページの「できるかなできたかな」というところ、これもそれぞれの单元の振り返りであるぐんぐんページには示されているのですけれども、ここでは自らの成長や学びの深まりを実感できるように工夫をされているというところです。

5つめのポイントです。これも48ページのこれは楽しい夏休みという部分なんですけれども、「お家でもっと生活科」というところがあります。それから次のページ、50ページの「びっくりずかんLIVE」というところ。これは家庭でも生活科の学習につながる活動に取り組めるように学習活動の例やワークシート等が載っております。この二次元コードの部分をタップしていただくと夏休みに家でチャレンジができるようなワークシートがあります。発展的な学習として掲載されています。学びに向かう力や人間性等に関する生活科の目標に位置づいている実生活や実社会との関わりの大切さや意欲や自信を持って学んだり生活をさらに豊かにしようしたりする態度を養うことに有効かなと考えます。

最後、6つめと7つめのポイントを合わせて紹介させていただきます。幼稚期から中学年までの接続に関することです。上巻の巻頭を御覧いただけますでしょうか。「学校大好き 1年生スタートブック」というところで、ここにはスタートカリキュラムに関わる单元を設定

し、児童が安心して学校生活を進められるように配慮されております。令和6年度より津市において架け橋カリキュラムが実施されるにあたり、これは大変参考になるページかと思います。2ページ、「入学前はどんなことをしたかな」というところ、入学したばかりの児童も幼児期の部分、幼稚園や保育園、こども園で体験したことを思い出しやすいページになっておりますし、教師もそこを意識しながら子どもたちに指導することができると思います。そして、さらにスタートブック3ページの「保護者の皆様へ」という部分があります。この二次元コードもタップしていただきますと、「保護者の皆様、先生方へ」というスライドが表示されて幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を確認することができます。次なんですけども、今度は下巻に移らせてもらいます。下巻の巻末の部分、同じようなちょっと小さいサイズになっているんですけども、ここには、3年生へのステップブック～みらいにむかって～という提示があります。ここは将来の夢に関する期待や希望が持てるよう工夫されています。また他教科マークがついてるんですけども、どの教科と関連しているのかということを示して、中学年以降の教科の見方や考え方につながる学習活動が具体的に示されています。ですので、上下1年生2年生で学習する教科書ではあるんですけども、幼児期の教育を思い出す部分、そして3年生に繋がる部分ということで、幼児期から中学年までの接続に関することが十分入っているのではないかと思います。以上「学習指導要領に定める生活科の目標を達成するための工夫」に関することについての説明を終わらせていただきます。

続きまして、2番の使用上の便宜について御説明させていただきます。先ほどから教科書持っていたらわかるかと思うんですけども、他の教科書会社より一回り小さいサイズが低学年にとっては手になじみやすく、そして軽いことが特徴になっております。また、目次が学習内容と並列して項目別に分かれているので確認が容易であること。そして、ページをずっと見ていただくとおわかりかと思いますが、人権や福祉、ジェンダー、多様な学習環境等を考慮した写真やイラストが採用されており、誰もが住みやすい社会を目指す意識や、家庭での役割分担、社会進出における性別差を固定化しないというような態度が自然に身につくように工夫されています。

最後に、「教師の支援の見える化」を重要視し、単元計画、授業のイメージ、具体的な支援等が分かりやすくなっていること、これは生活科を専門としない教員や、教職経験や低学年担当が少ない教員なども含むだれもが、生活科の深い学びをイメージできるものということになっています。

以上、簡単ですけれども、報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

森教育長

はい、ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、御質問、御意見お願いいたします。

富田委員

啓林館ということなんですけども、この啓林館との対抗馬になっている出版社とそれと比較した時にどこが、どう違うというのをお知らせください。以上です。

調査員代表

よろしいですか。はい。対抗馬となっているのは、東京書籍「新しい生活」です。こちらもいいなというふうに思っておったんですけども、例えばですね、他教科との関連の部分ですけれども、他教科との関連の部分はこちらの「新しい生活」は下にしか登場しません。下のページの 15 ページ「話をつなごう つながる国語」という感じで、他教科との関連のところで見ますと早い段階からは出ていないということで、やはり啓林館の方がいいなと思いました。それからもう一つ重要視されているのは、このスタートカリキュラムの部分を比べてもらったらわかるのですけれども、こちらは幼児期の部分もしっかり載っています。これは啓林の方ですね。先ほども言わせていただいたとおり、幼児期について子どももしっかり思い出せる。そして接続、教員も入学前にどんなことしたかなというふうな問い合わせから、子どもたちの学びも深い学びに進められるということですが、こちらの東京書籍の方はもう、1 ページめくったらもう、すぐに「学校の 1 日」ということで、今までの小学校 1 年生の教員が生活科を進めてい

た従前のような取組からのスタートみたいな感じになってしまいがち、そこへ陥りがちなんじゃないでしょうかということで、啓林の方を私たちは選定というようにさせていただきました。以上です。ありがとうございます。

森教育長

他、いかがですか。

田村委員

すみません。先ほどの説明、この A 3 の方が触れられなかつたんですが。

事務局（斎藤指導主事）

担当指導主事から少し補足させていただきます。今回、教科書を調査していただくにあたりまして、この令和 4 年度から始まっております津市架け橋プログラムにおいて、お手元にあるのは津市架け橋カリキュラム案なんですが、令和 4 年度末に津市の架け橋期のカリキュラム案として策定させていただいてます。これ左側が 5 歳児のもので、右側が小学校 1 年生のカリキュラムになっているんですけども、この右側を御覧いただきたいんですけども、津市としては生活科を中心とした学びということで生活科を中心としたカリキュラムを作らせていただいています。先ほど調査員代表の方からも話がありましたけれども、他教科と関連した部分についても啓林館については早い段階から教員が意識しやすくなっています。この津市架け橋カリキュラム案では生活科を中心ということで生活科は幼児教育と小学校教育をつなぐもの、そして他教科、国語や算数ともつなぐものとして、他教科にもつながるということで作らせていただきましたので、調査員の方々に調査してもらう中で、やはりこの啓林館の教科書が学校の先生たちにとってもこの架け橋期カリキュラムの作成ということで進めてもらうんですけども意識しやすくてまた参考にしやすい教科書ということで調査いただいております。

森教育長

よろしいですか。

田村委員

そうすると先ほどからしっかりと説明いただいたんですけども、いわゆる幼児期、保育園、幼稚園、こども園から小学校への接続のことで津市が取り組んでいる架け橋カリキュラム、架け橋プログラムの小学校低学年の核となる教科の教材としても一番これがいいというふうに評価されたんですね。

調査員代表

はい、ありがとうございます。

森教育長

よろしいですか。

はい、それでは、ありがとうございます。

森教育長

それでは、生活科の教科書採択について、御意見をお願いします。

富田委員

はい、先ほど、その東京書籍と比較したところの話の中で、例えば最初にあるようなスタートカリキュラムに入るところが議論されていましたけれども、ここに見られるようにやはりこの幼児期の経験ということをまず踏まえて、そこについて子どもたちに「いろんなことを経験していきたいな」ということを問い合わせるところが備わっているというのは、やはりいいところというかね。他にも見られて、例えば、啓林館の上巻の20ページですね。「わたしの花を育てよう」というところなんんですけども、東京書籍の場合だと、「花を咲かせよう」26ページですね。東京書籍の場合も、ちょっと保育園の時は「みんなで花を育てたよ」というふうなこういう写真と共に言葉が添えられているんですけども、明確に問い合わせになっているのは啓林館の方で。「花を育てたことはあるかな」というふうな問い合わせから始まって、そこから「いろんな花を育てたいと思った」というふうに、子ど

もたちが経験したことを踏まえてやってみたいというような気持ちを掻き立てる話になっているので、展開というところが啓林館は基本的に重視されているのかなと思います。それからその後ですね、「わくわく」とか「いきいき」「ぐんぐん」というそのあたりも子どもたちが身近な生活や環境を通して、膨らませていくような。主観的な感情や、そこから経験したことをただやりっぱなしじゃなくて、自覚的な学びへつなげていくような、そういう最終的な仕掛けへつながっていく展開も含めて、啓林館がいいのかなと思いました。ただ、この辺の微妙な、作りにどれだけこう伝える側が敏感に受け止めてやるかというところが問題で、こう書いてあるけど、今日はなんか作るからねといきなりやってしまうのはね。「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」という言葉も、いかにも幼児教育的な言い回し、というところにどれだけ気づいて、そこを重視してもらっているかというところが、今後、教科書の使い方としては大事なところかなと思っています。

森教育長

ありがとうございます。とても貴重な御意見やと思います。架け橋プログラムの中での、いろいろなワーキングの話、今は具体的な子どもの姿を前にして、話し合いをしていますけど、今、言われた、例えば小学校の場で、教科書、例えばこう持った時に、こういう教科書のことにも触れながら、どんなふうにこれを使っていくのということ。というのも、それを幼稚園の先生もそう、幼稚園、保育園、小、こども園の先生方にそういうことを知ってもらう。同じ教科書を使っているので、知ってもらうなんてすごく大事な事なんで、ちょっと意図的にそこはつないでいかなあかんなというふうに思いますので、せっかく教科書にこういうことが載っていても、スルーしていくば、何にもならないと、何も言わなかつたらそうだと思います。きっと、今まで通りのなんか朝顔セット買ってきて、はい、育ちましたみたいな、そんなことまだやりかねないと思うので、そのあたりも含めて、教科書にもそういった工夫があるんだよと、大事になっていくかな。

富田委員

各園にも生活科のこの教科書を配布するとかって。確認です。

西口委員

なんかこの、上だけでもいいですね。上だけのもので配布するといいかなと気が私もします。

事務局（伊藤主幹）

これまでではないんですが、例えばそういう幼稚園やこども園、保育園の先生方の研修会で取り扱うということは今後必要かなというふうに思います。それは、できると思いますので。

西口委員

小学校の先生にも、その幼稚園、中学生の経験を基にしてくださいねということの研修も大事かなと思います。

富田委員

ちなみに、小学校に幼稚園教育要領とか、保育所保育指針はないですよね。それも必要かもしれません。

山口委員

教科書をお渡しすることすらできないんですね。幼稚園に。

森教育長

いや違う、予算の関係で。

西口委員

これはね、これは国からの無償ですから、だからもし市内の幼稚園に渡そうと思うと、津市で予算立てしなければならない。

事務局（伊藤理事）

教科書は、子どもたちは無償なんですけれども、先生たちの教師用というのは教育委員会の方で予算を取って配布させていただいております。基本としては学級数というふうな形で配布させていただいておるんですけども、学級がこう減ってきておりますので、その分予算

の調整を毎年こうしている状況があるんですけども、今回のこの御意見も参考にさせていただいて幼稚園への配付、幼稚園数も多くありませんし、配付ということもちょっと視野に入れながら来年度の予算について今ちょうど考える時期でもありますので、少し全ての教科でなくとも生活科はすごく大事だと思いますので、そのあたり架け橋との繋がりでちょっと予算も考えていきたいと思います。ありがとうございます。

森教育長

それではよろしいですか。

はい、啓林館の「わくわく生活、いきいき生活」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

それでは津市教育委員会として、啓林館の「わくわく生活、いきいき生活」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定をいたします。

続きまして音楽について協議を行います。

【音楽】

森教育長

はい、それでは、調査員代表、よろしくお願いします。

調査員代表

よろしくお願いします。

森教育長

報告よろしくお願いします。

調査員代表

よろしくお願ひいたします。令和6年度使用小学校用音楽科用図書調査の報告をさせていただきます。

2者の見本本を調査検討した結果、教育出版の「小学音楽音楽のづくりもの」が、令和6年度使用する教科書としてふさわしいと評価させていただきました。2つの観点についてその主な理由をいくつかに絞って説明させていただきます。1つめの観点である、学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫として8つ挙げさせていただきました。その中で主な理由4点を説明させていただきます。

まず、1つめの丸についてです。3年生の教科書26、27ページを御覧ください。全学年、見開きの左上に「学習のねらい」が示されています。また、右上には方位磁針のマークで示された「まなびナビ」で、学びの進め方のヒントが示されています。さらに中学年・高学年では、「学び合う音楽」として、このように具体的な学び方の例を示すことにより、子どもたちが見通しをもって主体的に学んだり、学習を深めたりできるように配慮されています。

続いて、3つめの丸についてです。3年生教科書28、29ページを御覧ください。音楽づくりの活動を、「音楽のスケッチ」という名前で掲載し、例えば、いろいろな声で「ヤッホー」といって、その声をグループでよびかけっこしたり、まねたり、重ねたりして音楽をつくりあげたり、さらに、60、61ページを御覧ください。自分の選んだ楽器で音をつくり、友だちがつくった音とつなげて演奏したりして、自分の思いや考えを出し合いながら、対話的、協働的な学びができるように、構成されています。また、1年生の教科書58、59ページを御覧ください。1年生の音楽づくりの活動では、星座から音をイメージさせ、星座の音をつないで音楽をつくりていくという、子どもたちの興味・関心を生かし、「星の音楽をつくりたい」という自主的な学習を促すための工夫がされています。また、はじめの音を和音から選べるので、だれが作っても無理なく旋律が作れます。さらに、友だちとつなげて演奏することで、みんなで作り上げた達成感を味わうことができます。

続いて、7つめの丸についてです。3年生の教科書40、41ページを御覧ください。歌唱共通教材を含む「にっぽんのうた みんなのうた」コーナーでは、見開きや折り込みの紙面に、歌詞から想像され

る季節感や情景を捉えることのできる、歌詞に忠実な写真が掲載されています。イメージを広げ、歌ってみたいという、子どもたちの興味関心を高めるための工夫が見られます。4年生、5年生、6年生の教科書の10ページ、11ページにも、4年生は「さくらさくら」、それから5年生10ページ、11ページには、「こいのぼり」、そして6年生「朧月夜よ」このように美しい写真と歌詞が掲載されています。

最後に、8つめの丸については、全学年に後ろの曲集コーナーに「Short Time Learning」を設けて、英語の歌を取りあげることで、外国語科・外国語活動との関連を図っています。また、2年生では算数科の「九九」の歌、3年生では「単位」を歌にした曲を掲載することで、歌を通して、他教科と親しむことができるよう工夫されています。さらに5年生「いろいろな声で音楽をつくろう」では、作家の草野心平の「ゆき」という詩を教材にして「しんしん」という言葉から、想像を膨らませて音楽を作る活動が掲載され、国語科との関連が図られています。

次に、2つめの観点である 使用上の便宜について、4つ挙げさせていただきました。その中で主な理由を3点説明させていただきます。

1つめの丸については、1年生教科書4、5ページを御覧ください。1年生の導入では、幼児期に経験したと思われる歌が掲載されています。イラストから知っている歌を思い出して、友だちといっしょに歌う活動から入っています。次のページからの「うたってうごいてみんなでおんがく」という題材では、「わらべ歌」や、歌いながら動いたり遊んだりする歌が掲載されて、スタートカリキュラムに適した教材がたくさん配置されています。

3つめの丸については、文字とイラスト、写真のバランスが適切な分量で、情報が整理されているため子どもたちに分かりやすく、また、配色やレイアウト、文字が誰もが見やすく読みやすい、色覚や視覚についての配慮がされています。

4つめの丸についてです。1年生教科書34、35ページを御覧ください。鍵盤ハーモニカのケースをあけて、譜面台の変わりにして教科書を置きますと、教科書に掲載されている鍵盤ハーモニカが、実物の楽器とぴたりと合います。また鍵盤上に階名が記されています。3

年生から学習するリコーダーでは、指の運びが、子どもの目線からの写真で掲載されています。子どもたちにとって大変わかりやすく、楽器の導入時における鍵盤ハーモニカやリコーダーとの出会いを大切するための配慮がなされています。

最後にこの教科書を選んだ決め手となった3つのポイントについて述べさせていただきます。

1つめは、音楽の楽しさや美しさにふれることができるようについて、子どもたちの視点を最も大切にしていること。

2つめは、様々な教員が音楽の授業ができるようについて、指導者の視点も大切にしていること。

そして、3つめは、子どもたちの興味・関心を促すよう工夫され、子どもたちが「歌いたい・演奏したい・音楽をつくりたい」というそういういった「学びたい」気持ちを最も大切にしていること。

以上の理由から、教育出版の「小学音楽音楽のおくりもの」を最も適切な教科書であると判断いたしました。

これで、令和6年度使用小学校用音楽科用図書調査の報告を終わります。

森教育長

ありがとうございました。ただ今の報告につきまして、御質問御意見お願いします。

富田委員

よろしいですか。

森教育長

はい。

富田委員

これ2者になりますけれども、今おっしゃったようなところというのは、2者比較すると、かなり大きな差がついているのか、あるいは僅差なのかどっちなんですかね。

調査員代表

はい。大きな差まではいかないと思うんですが、教育芸術社の方もよく似たところに力を入れられているんですが、やはりこう大きな違いというのは、ここにも挙げさせていただいているように、教育芸術社の方は5名の作曲家の方や、それからリコーダーの演奏家、合唱の指揮者などそういった方が編集に携わっているということで、すごくこう音楽の世界を伝えたいと、そういった熱意が伝わってくる訳なんですが、教育出版の方は、やはり子ども達の目線を非常に大事にされているなという、なんかそこら辺が、大きな違いであるかなというふうに私たちが調査をさせていただいたところです。

富田委員

先程おっしゃっていただいた、鍵盤ハーモニカのことについては、まさに、ぱっと見た時に、子どもの心にどのように語りかけるかというところを、常に意識されていて 非常に納得がいきました。ありがとうございます。

調査員代表長

ありがとうございます。

森教育長

はい、どうぞ。

山口委員

「音楽のおくりもの」の鑑賞というところは、実際にしているんですか。授業の中で。

調査員代表

そうですね。はい。

山口委員

それはQRコードとか、そういうものではなく。

調査員代表

そうですね。QRコードは、どちらかというと、自分で聞いて、勉強した後にもう1回聞くとか、そういったところで使ってもらえるようなもので、鑑賞については、授業の中で、はい。

山口委員

鑑賞は必ず、学校でいらっしゃるということですね。

森教育長

本当に、共通教材以外は、本当に出版社の、まさに選ばれている方々の考え方なんですね。全然違いますよね。共通教材は一緒なんですが、それ以外は、全然違うなど。

調査員代表

はい。

森教育長

それだけですけど。特に音楽は思いますね。

西口委員

いいですか。教育芸術出版社は、けっこう長い歴史を持ちながら、やはり旧態依然としたところがあるかなと。教育出版は、写真でここは大事というのを伝えているということがよくわかりました。

森教育長

よろしいですね。それでは、ありがとうございました。

調査員代表

ありがとうございました。失礼いたします。

森教育長

はい、それでは、教科書採択につきまして、御意見よろしくお願ひいたします。

昔こっちやったよな。

西口委員

そう。

事務局（伊藤理事）

前回、変更になりまして、ちなみに津市以外は全部教芸です。

森教育長

あ、そうなん。

事務局（伊藤理事）

はい。今回の採択はわかりませんが。前回。

森教育長

他は、教芸。うちだけ、教育出版やったん。

事務局（伊藤理事）

そうです。

森教育長

学んでいる曲は、津市は全然違うんやな。

西口委員

色んな他の曲を学べる方がいいかなと。

森教育長

そうなんや、教芸なんや、津市以外は。

事務局（伊藤理事）

今回はわかりませんけど。

田村委員

津市は前に教芸から教出に。松阪市は逆に、教育出版から教芸に。

事務局（伊藤主幹）

前回、そうですね。

田村委員

松阪と津市が入れ替わった。

事務局（伊藤理事）

そうですね。

森教育長

なんか芸術的なそういう観点が教芸にはあると言っていたよね。子どもの目線でというのが教育出版で。それが印象的なので、それでえんちゃう。

田村委員

さっき、聞くべきやったんでしょうけど、これ鑑賞は付属のCDか、なんかついてるんですか。

事務局（伊藤主幹）

はい、ついています。

山口委員

音符が1年生のうちからついているのは、先生のため。

事務局（伊藤主幹）

子どももします。

西口委員

教芸だと、こんなに大きくたくさん載せてくるんですけど。もったいない。別に楽器だけでもいいような感じがする。

森教育長

はい、それでは、よろしいか。はい。教育出版「小学音楽音楽のおくりもの」を令和6年度使用小学校用の教科書として採択することに決定してよろしいですか。

委員

はい。

森教育長

それでは、津市教育委員会として、教育出版「小学音楽音楽のおくりもの」を令和6年度使用小学校用の教科書に採択することに決定をいたします。

それでは、続きまして、英語について御協議をお願いします。

【英語】

森教育長

それでは、調査員代表、よろしくお願いします。

調査員代表

よろしくお願いします。

英語は6者ありまして、6者の教科用図書見本本を調査検討した結果、東京書籍の「NEW HORIZON」が最も適切な教科書であると判断しました。その主な理由は次の通りです。

学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫としましては以下の5点です。

1点目としましては、児童の興味関心に広く訴える題材や言語活動を通して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成につながるという工夫や、魅力的な題材やデジタルコンテンツなどを通じて、外国語やその背景にある文化を社会や世界、他者との関わりに着目して捉えることができるよう工夫されているということです。例えば、5年生の教科書76ページを見てください。76ページです。L

et's Try 1 で「行きたい場所や理由」を考え伝え合い、次に 77 ページ、Let's Try 2 で Let's Try 1 の内容に「そこでしたいこと」なども付け加えて、たずね合うという活動のように、最初に学習したことに次のことを積み重ねて学習を深めます。また、単元末の目標達成に向け、4 技能がバランスよくあり、5 年生の教科書 73 ページのような、73 ページを御覧ください。思考ツールも掲載されています。この思考ツールは、6 年生の教科書では 37 ページ、37 ページや 71 ページなどにもあります。このように、全体を通じて主体的・対話的で深い学びの実現が図られるよう工夫されています。

2 点目としましては、段階に応じた習熟が図れるよう、繰り返し聞いたり話したりする構成になっており、各単元の Small Talk や Sounds And Letters を積み重ねることで、「話す」「読む」「書く」の基礎が養われることが期待されるということです。また、ペアやグループで助け合いながら行う様々な発表活動が設定されているので、協働的な学習を行うことができ、段階を踏んで言語能力や論理的思考力の育成を図ることができるよう工夫されています。

3 点目としましては、教科書や別冊の辞書の様々な箇所に二次元コードがあり、多くの映像や音声などのデジタルコンテンツにアクセスでき、興味・関心を高められるよう設定されているということです。例えば、5 年生の教科書 76 ページを見てください。5 年生の教科書 76 ページです。右上の二次元コードを読み取ると Unit 7 の Your Turn に繋がります。映像を見た後、その画面からホームへというところをクリックすると、全体のホーム画面に簡単にアクセスすることができます。どの二次元コードからでも、全体のホーム画面にアクセスできるので、そこから自分の必要なユニットの映像を見ることができるという利点もあります。ほかにも 2 年間使用する別冊の辞書には、個別最適な学びに適したデジタルコンテンツとして、日本や世界の有名な場所やものを探して書き写したり、音声の確認をしたりすることができるデジタルマップがあるなど、デジタルコンテンツを活用したり、教科書の Plus! では別冊の辞書の二次元コードにアクセスするとbingo ゲームができるようになっているなど、楽しみ

ながら英単語を覚えることができる工夫があります。デジタルマップは別冊辞書の、Picture Dictionaryです。それを御覧下さい。2ページ、3ページ、世界のことの2ページ、3ページです。世界の地図。4ページ、5ページが日本地図となっていまして、そこから2次元コードを読み取っていくと、その場所のところにたどり着くことができます。

4点目としましては、6年生の教科書38ページを見てください。6年生の教科書38ページです。そのページにはユニットのゴールが示され、隣のページ39ページには、学習評価の規準3観点、上のところです。3観点が、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に対応した目標が明示され、該当するページでは、それぞれの目標に対応する振り返りや自己評価をすることができます。また、Unitごとにゴールが示されています。各ユニット内の4部構成においても、それぞれのめあてや振り返りが示されおり、ユニット全体としては、学習の見通しをもてるスマールステップの単元構想となっているということです。6年生の教科書38ページ、39ページで「ふれる」、40ページ、41ページで「やってみる」、42ページ、43ページで「伝える」、44ページ、45ページで「社会との関わりについて考える」という単元構想により英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を児童が自発的に行うことで、学習内容の定着を図るという工夫があります。振り返りは45ページの右下のようにそれぞれのステップごとにあります。別冊の辞書、別冊の辞書を御覧下さい。42ページ、43ページです。別冊の辞書42・43ページに「CAN-DOの樹」があり、ゴールの姿をイメージできるよう工夫されています。

5点目としましては、今日的な課題が教材に多く取り入れられ、他教科と関連した学習が行えるよう工夫されているということです。

使用上の便宜としましては、特別な配慮を必要とする児童などへの配慮が多数あるということです。以上です。

森教育長

はい。ありがとうございました。ただ今の御報告を受け御質問や御意見お願いします。

富田委員

小学校英語も道徳と同じように、教科として若いというか、まだ新しいですけど、実際、教科書を使って小学校英語を行ってくる中で、こういうところが特にあるといいとか、現場の声としてはどのようなことが挙がっているのかなと、少しお話いただけたらと思います。

調査員代表

それぞれの担任が、英語を教えるということで、先生になった時には、そうではなかったことも 教員でありますので、もちろん英語はある程度は勉強してきても教えるということに自信がないなという教員もあります。その点に関しては、教員も研修を積み重ねていくべきだと思っております、十分、研修はしておると思いますが、そういう教員も安心して確実に、子どもたちに教育ができるようにしていかなければならぬと思っているのですが、その一つとしてデジタル教科書が大変役立つというか、必要かなと。ネイティブに、もちろん教師がネイティブに話さなければなりません。ALTの先生も活用して伝えなければなりません。それだけでは補えないところとかをデジタル教科書や、デジタルコンテンツでしていくということが、必要なことかなと思っております。併せて、教員みんなが自信を持って英語を教えていけるようにと思っております。

富田委員

実際に教科書には空欄、書き込む欄が多いわけですけれども、これ全部空欄を埋める感じで授業を進めていく感じですか。

調査員代表

それは、その学校の子どもの様子だったり、省略できるところは省略していく、省略というか、英語で書いたり、日本語で書いたり、ここには示されていないこともありますので、まずはその子が考えるか、ちょっと日本語でメモをするとか、あるいは、英語で書ける人は英語で書いてみましょうとステップアップするとか、個に応じてやっていく必要があるのではないかと思います。端から端まで全て埋めて

下さいというのではないのかなと思いますが、うまく活用していけばいいなと考えております。

富田委員

巻末の絵カードなんかも地域とか教員の事情によって、使用頻度とか使い方とか、そういう差がありますか。

調査員代表

そうですね。うまく活用すれば子どもの興味をうまくひけるかなと思いますが、全て活用すると時間も限られているので、その子どもたちに必要なもの、興味持てるもの、そういうものを選びながら進めていく必要があるのではないかと思います。

富田委員

他の教科に比べてもデジタルコンテンツを使用する頻度は、英語ではかなり多いですか。

調査員代表

かなり多いと思います。必ず使用します。私も今、いろんな学年の授業を見ておりますが、3年生から6年生の授業ですけれども、デジタルコンテンツを使わない日はないと思います。

富田委員

やはりそれがないと興味関心とか学習意欲というものを引き出すというのはけっこう難しいというか、生活の中で必ずなくてはならない感じですか。

調査員代表

難しいということではないと思いますが、教師のやり方によっては引き出せるかなと思います。でも、今タブレットの学習とかそういうのを取り入れた学習が進んでいるので、子どもたちも大変そういうことに興味を持っていますから、今の子どもたちの興味にあった学習の手法かなと思います。

森教育長

他、よろしいですか。

中学校もNEW HORIZON。

事務局（西橋指導主事）

現在は、そうです。

田村委員

ざっと見て、他の出版社でも付属辞書みたいなのをつけてるところとつけていないところとあったと思うのですが、本体教材と共にこの使い方というのも非常にうまく使うかどうかというのも変わってくるような気がするんですけども、そのへんは評価においてはどのようにみられましたか。

調査員代表

いろいろあって、教科書の後ろにある、取れない形でね。後ろにあると、子どもが見たい時に、または書き写したい時に、こうペラペラするので、ちょっと使いにくのではないか。それから5年生は5年生である、6年生は6年生で辞書がついているという教科書会社があって、それはそれで良さはあるんですけど、私たちが話し合ったのは2年間でこの小学校の間の2年間で、このことを学んできました。ここに語彙があります。2年間を続けて使うというところに1つ良さがあるのではないか、それから途中でも言いましたがデジタルコンテンツの量としましては、本当にこのHORIZONが多いと思うので有意義に使えるのではないかと思いました。

田村委員

ありがとうございます。

森教育長

よろしいですか。

はい、ありがとうございます。

調査員代表

ありがとうございました。

森教育長

はい、それでは教科書採択について御意見をお願いします。

西口委員

東京書籍の教科書は綺麗で、書くところと学ぶところが整理されていて、書きやすいなという気がするので、東京書籍で良いかなと思います。すっきりしている。

富田委員

英語は他の教科の教科書と比べると全体的にノリが違うというか、どういう見方をすれば良いのか、まだ馴染めていない。優劣がなかなかつけにくいというか。何がどう違って、何が良いのかよくわからないですけれども。

田村委員

英語は言葉なので、まずは、だいたい耳から覚えるんですよね。小さいころから。だから先程おっしゃってみえたデジタルコンテンツがすごく充実しているというのは、耳から入れていくということに関しても大きいんじゃないかなという気がします。

富田委員

デジタルコンテンツの重みが他の教科と比べてかなり重いという話なので、そこを含めないと教科書の議論はできないですね。

森教育長

英語の授業を見た時に、確かに耳からもそうだし、視覚的にも大きいよね。だから、確かに無しというのはありえない。昔は何か、絵みたいなのでやってましたけど、今はもう本当に、臨場感もあるんですね。

事務局（伊藤理事）

リズム的なので、音楽というか、耳と目から聞く。さっきあの、調査員と話をする中で、小学校は、英語の資格を持っている教員が必ずしも英語をもっているというわけではないので、担任がすることになっているから。やっぱりどうしてもこういうデジタル教材、デジタル教科書を活用しながらということが多くなってくるのかなと思います。他の教科と比べて英語のデジタル教材は、よく考えられているなと私たちも感じますので、そのぶん、よく使われているのかなという気はします。

森教育長

英語がスタートした時に、市長も言っていたんですが、とにかく指導にばらつきがあつては子どもには不幸やということで、とにかく各学校に英語の免許を持った人を、必ず入れていこうということでスタートはしているんです。できたら、その教科担任制的なことができたらいいなとは言つてゐるんですけど、そんなこと言つてゐるような状況でなくなってきたのは確か。やはり、指導とかは差がありますよね。英語なんか全然採用試験も教職の免許に関係ない人たちがほとんどでするので、苦手な人もたくさんいる。その人に英語を教えてもらうというのは不公平。そういう話は総合教育会議でしました。だから、その辺の配置については、できるだけそういった英語の免許を持っている方が各学校に数人いて、その方が教科担任で持つのが望ましいと言つてますけど、なかなかそうはいきません。やってるところもありますけど。

山口委員

一つお聞きしたいんですけど、英検は義務教育のなかで、基準になっていることはあるんですか。

事務局（伊藤理事）

中学校3年生を卒業する時に英検3級程度というのは一応掲げられています。国も出るときには大体60%くらいは3級をもつてゐる。

津市もそれを基準にして、教育振興ビジョンの方には60%を、今50%を超えるくらいですけども、津市は英検の過去問を英検の会社と協定を結ばせていただいて、自由に使っていいというのをお願いさせていただいている。中学校1年生で入った時に、英検の3級、4級、5級を練習で過去問を使って解くということを各学校でさせもらっています。何か受けに行っているというわけではないんですが、それを基準にして英検5級か、4級か、3級かということを中学校の先生が目安にさせてもらっています。

山口委員

目安になりますよね。本人も。

事務局（伊藤理事）

そうですね。

森教育長

はい、よろしいですか。はい、それでは東京書籍の「New Horizon Elementary English Course」を令和6年度使用の小学校用の教科書として決定していいでしょうか。

森教育長

はい、それでは、津市教育委員会として東京書籍の「New Horizon Elementary English Course」を令和6年の使用小学校用の教科書として採択することに決定をいたします。

これで議案第33号の審議を終了します。2日間に渡りまして御審議頂きまして本当に疲れ様でした。ありがとうございました。